

公益法人 日本放射線腫瘍学会
2016・2017年度 理事・監事選挙立候補者名簿

理事選挙立候補者

氏名	所属	現満了任期
内田 伸恵	鳥取大学医学部 放射線治療科	1期満了
宇野 隆	千葉大学大学院医学研究院画像診断・放射線腫瘍学	1期満了
大西 洋	山梨大学 放射線科	2期満了
小川 和彦	大阪大学大学院医学系研究科 放射線治療学講座	
鎌田 正	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所病院	
唐澤 克之	がん・感染症センター都立駒込病院 放射線科	3期満了
唐澤 久美子	東京女子医科大学 放射線腫瘍学講座	
古平 毅	愛知県がんセンター中央病院 放射線治療部	
櫻井 英幸	筑波大学大学院医学医療系 放射線腫瘍学	
笹井 啓資	順天堂大学医学研究科 放射線治療学講座	4期満了
佐々木 良平	神戸大学医学部附属病院 放射線腫瘍科	1期満了
塩山 善之	九州国際重粒子線がん治療センター 放射線科	
茂松 直之	慶應義塾大学医学部 放射線科学教室	3期満了
芝本 雄太	名古屋市立大学大学院医学研究科 放射線医学分野	4期満了
白土 博樹	北海道大学医学研究科 放射線医学分野	3期満了
永田 靖	広島大学大学院 放射線腫瘍学	2期満了
根本 建二	山形大学医学部 放射線腫瘍学講座	4期満了
長谷川 正俊	奈良県立医科大学 放射線腫瘍医学講座	2期満了

(以上18名、五十音順)

監事選挙立候補者

氏名	所属	現満了任期
中野 隆史	群馬大学大学院医学系研究科腫瘍放射線学	
手島 昭樹	大阪府立成人病センター放射線治療科	

(以上 2名、五十音順)

定款施行細則

第14条 理事の定数は14名以上16名以内とし、監事の定数は2名以内とする。

第17条 理事のうち14名は立候補した代議員から選出する。選出する理事は同一施設1名以内とする。

第18条 監事は立候補した代議員から選出する。

定款第23条

理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとし、再任を妨げないが、通算5期までとする。但し、その任期が通算3期を超える理事の員数は定数の5分の2以内とする。

2 監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとし、再任を妨げないが、通算3期までとする。

理事選挙立候補者 所信表明（氏名・五十音順）

■内田 伸恵（鳥取大学医学部 放射線治療科）

今期、日本放射線腫瘍学会理事、教育委員会委員長、がん放射線治療推進委員会副委員長の職責を精一杯努めてまいりました。

大学も一般病院勤務も、都市部も地方勤務も、男性も女性も、JASTRO 会員がその力をさらに発揮できる環境を整えることに微力ながら、尽力したいと願っております。ご支援の程、お願い申し上げます。

■宇野 隆（千葉大学大学院医学研究院 画像診断・放射線腫瘍学）

理事として2年間、ガイドライン委員会、専門医制度委員会等で放射線腫瘍医の立場から治療計画ガイドライン 2016 をはじめ諸学会の診療ガイドライン作成を支援・調整し、また、治療専門医の育成と充足に努めてきました。今後 IMRT 施設基準の見直し、新たな保険制度、不透明な新専門医制度など様々な問題に対し、放射線治療全般、学会と学会員個々の将来を見据えて鋭意対応してゆきたいと考え、立候補させていただきました。

■大西 洋（山梨大学医学部 放射線医学講座）

小生は 1993 年以来 20 年以上 JASTRO 健保委員として、また昨期からは健保担当理事として放射線治療の診療報酬の適正化と構造改善に努めて参りました。診療報酬は患者さんの診療とスタッフの労働形態を健全にするために最も重要な要素であり、健保作業には継続性と戦略性が必要であると考えております。引き続き健保担当のお役目を与えていただければ、皆様の意見を伺いながら全力を尽くして参ります。よろしく願い申し上げます。

■小川 和彦（大阪大学大学院医学系研究科 放射線治療学講座）

現在までに教育委員会、編集委員会、データベース委員会の委員となり JASTRO の活動に従事して参りました。今後とも人材育成としての教育、臨床・医学物理・放射線生物の各分野における研究の推進、それらを円滑に進めていくための基盤整備を図っていきたいと考えております。そして、日本の放射線治療を益々発展させるために、理事の活動を全力で取り組んでいく所存です。皆様からのご支援を賜りますようお願い致します。

■鎌田 正（国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所病院）

放射線治療は我が国において様々な臨床応用が行われるとともに照射技術や装置の研究開発が実施され、近年、世界で急速に普及しつつあり、将来の重要な放射線治療として期待されています。私はなかでも、重粒子治療を中心とした臨床研究、装置開発、国際的な教育・研究交流に努めてきましたが、さらに粒子線治療のより高いエビデンスの創生、あるいは標準的な放射線治療と粒子線治療との調和の取れた進歩・発展に取り組みます。

理事選挙立候補者 所信表明（氏名・五十音順）

■唐澤 克之（がん・感染症センター都立駒込病院 放射線科）

私はこれまで3期にわたり、本学会の理事として、広報委員会を中心に、国際委員会、倫理委員会等で仕事をさせて頂きました。前回は規約の改訂のために当選できませんでしたが、その後の2年間も東京在住の代議員として本学会の運営をサポートして参りました。今回理事に当選させて頂きましたら、これまでの経験を活かして本学会の更なる発展のために全力を尽くす所存です。よろしくご支援のほどお願い申し上げます。

■唐澤 久美子（東京女子医科大学 放射線腫瘍学講座）

JASTRO は国内のみならずアジアのリーダーとして放射線腫瘍学の発展に貢献すべきと考えています。小職は2000年より評議員・代議員を努め、将来計画・選挙制度検討・国際・関連学会渉外・医学物理士・広報委員をさせて頂き、昨年は「患者さんと家族のための放射線治療 Q&A」を提案し、編集責任者を務めさせて頂きました。JASTRO の発展、会員と関係者、患者さんのために働きたいと考えております。

■古平 毅（愛知県がんセンター中央病院 放射線治療部）

次期理事に立候補します。2008年～代議員、専門医制度委員、渉外関連学会委員、編集委員、放射線治療計画ガイドライン作成、2016年夏季セミナー世話人を担当し学会活動を支援してきました。JCOG、JROSG、WJOGのコアメンバーとして医療の質向上に貢献致しました。頭頸部癌学会理事、食道癌学会代議員の職務より他部門との連携を強化しJASTROの更なる発展に貢献したいと思います。宜しくお願い致します。

■櫻井 英幸（筑波大学大学院医学医療系 放射線腫瘍学）

私はJASTRO発足時からの会員で、教育委員会、将来計画委員会で学生・研修医の教育、JASTROのありかたについて議論してきました。最近は粒子線委員会、健保委員会での活動を通じて、粒子線治療の保険収載に一定の役割を果たしました。若い放射線腫瘍医を増やし、放射線治療をひろめ、あらゆる場面でがん診療のなかでの放射線腫瘍医のプレゼンス向上に努力し、JASTROの更なる発展に寄与したいと考えております。

■笹井 啓資（順天堂大学医学研究科 放射線治療学講座）

私はこれまで本学会理事として、認定制度、財務、規約、がん放射線治療推進等の各委員会を担当し、現在は編集委員長、JRR誌副編集長として努力しています。編集長がこれまで短期で交代してきたため、JRR誌の編集に一貫性が欠けた面が認められることを実感しています。理事5期目となるため立候補しないことも考えましたが、JRR誌のよりいっそうの充実を図るため、あえて立候補いたします。よろしくお願ひいたします。

理事選挙立候補者 所信表明（氏名・五十音順）

■佐々木 良平（神戸大学医学部附属病院 放射線腫瘍科）

これまで QA 委員会、規約委員会の委員長と DB 委員会の副委員長を 2 年間努めさせていただきました。今後はこれまでの活動をさらに発展させ、JASTRO に貢献していきたいと願っております。

■塩山 善之（九州国際重粒子線がん治療センター 放射線科）

これまで代議員として、用語委員会、広報委員会、学術委員会、粒子線委員会で活動して参りました。

放射線腫瘍学ならびに日本放射線腫瘍学会がさらに成熟し、また今後更に発展できるような微力ではありますが、尽力する所存です。

■茂松 直之（慶應義塾大学医学部 放射線科学教室）

JASTRO 発足時からの会員で 1996 年から代議員、2009 年度から理事を務めました。日本医学会、日医放、癌治をはじめとする多くの関連学会、日本歯科医師会、日本アイソトープ協会、厚生省、文科省などとの渉外を担当しました。次年度は私の本当の正念場として、JASTRO の実力が世界に発信できるよう全力で努力したいと思います。基礎・臨床研究のための資金獲得、若手への教育の場の提供を志します。

■芝本 雄太（名古屋市立大学大学院医学研究科 放射線医学分野）

JASTRO の国内及び国外における地位のさらなる向上のために尽力します。JRR 誌や国際学会等を通じて JASTRO の研究活動を海外にアピールしていきたいと思います。ASTRO、ESTRO と連携をさらに深められるように努力するとともに、FARO を発展させつつ、アジア諸国の放射線腫瘍学会とも積極的に交流を深めていきたいと思います。また放射線腫瘍医の育成および高精度放射線治療と粒子線治療のさらなる普及に尽力します。

■白土 博樹（北海道大学医学研究科 放射線医学分野）

過去 2 年間、我が国の先人たちが牽引してきた粒子線治療の先進医療に関する作業に全身全霊で対応して参りました。長く期待されてきた保険収載が実現できたことは喜びに耐えません。ここで気を緩めることなく、質の高い臨床研究の推進、適応の最適化、我が国発の放射線治療技術の国際化を進めます。さらに、超高齢化社会に突入した現在、JASTRO が我が国の低侵襲がん治療全体を牽引できるように、積極的に活動することを約束します。

理事選挙立候補者 所信表明（氏名・五十音順）

■永田 靖（広島大学大学院 放射線腫瘍学）

私は平成 24 年より日本放射線腫瘍学会理事、用語委員会前委員長、専門医制度委員会副委員長として、また平成 26 年よりがん放射線治療推進委員長として活動致しました。若手医師・医学生を勧誘する目的で行われている、医学生・研修医セミナーやレジナビに参画させて頂き、またがんプロフェッショナルの養成に向けても活動致しております。もとより微力ではございますが、日本放射線腫瘍学会の発展に尽力いたす所存です。

■根本 建二（山形大学医学部 放射線腫瘍学講座）

過去、JASTRO 理事を 4 期務めさせて頂きました。教育委員長としては物理・生物セミナーの立ち上げや ESTRO スクール開催の道筋作り、専務理事としては、委託事務局から独立した独自の事務局設置等、JASTRO の機能強化に努めて参りました。規定上最後の理事立候補となりますが、引き続き JASTRO 全体の発展に寄与できるような仕事ができればと考えております。ご支援の程、どうかよろしく願いいたします。

■長谷川 正俊（奈良県立医科大学 放射線腫瘍医学講座）

放射線腫瘍学の発展に長年務め、特に理事の 2 期 4 年間は専門医制度、生物部会を主体に活動してきました。前者は専門医機構への移行の延期で混乱していますが、渦中にあるのは第一段階の放射線科専門医で、第二段階の放射線治療専門医はこれからが本番です。後者では分子生物学の発展が目覚ましい放射線生物学と高精度放射線治療との連携を重視し、ICRR 開催にも積極的に関与しました。ぜひよろしく願い申し上げます。

監事選挙立候補者 所信表明（氏名・五十音順）

■中野 隆史（群馬大学大学院 腫瘍放射線学）

これまで JASTRO の理事として編集委員長や国際委員会委員長等を拝命し、JRR の刊行事業活動や国際学会との連携強化に尽くして参りました。JASTRO は今後、放射線腫瘍医や医学物理士の専門性強化と、人材の拡充を図ると共に、ASTRO や ESTRO との連携、アジア放射線治療学会連合（FARO）の組織化の発展が期待されますが、今度は監事として JASTRO の更なる発展に貢献したいと考えています。

■手島 昭樹（大阪府立成人病センター 放射線治療科）

会員、代議員の先生方の温かいご支援のお陰で、永年、理事として DB 委員会を担当させていただきました。誠に有難うございます。今後は微力ですが、新理事の先生方を裏方で支えて最後のご奉公ができれば光栄に存じます。